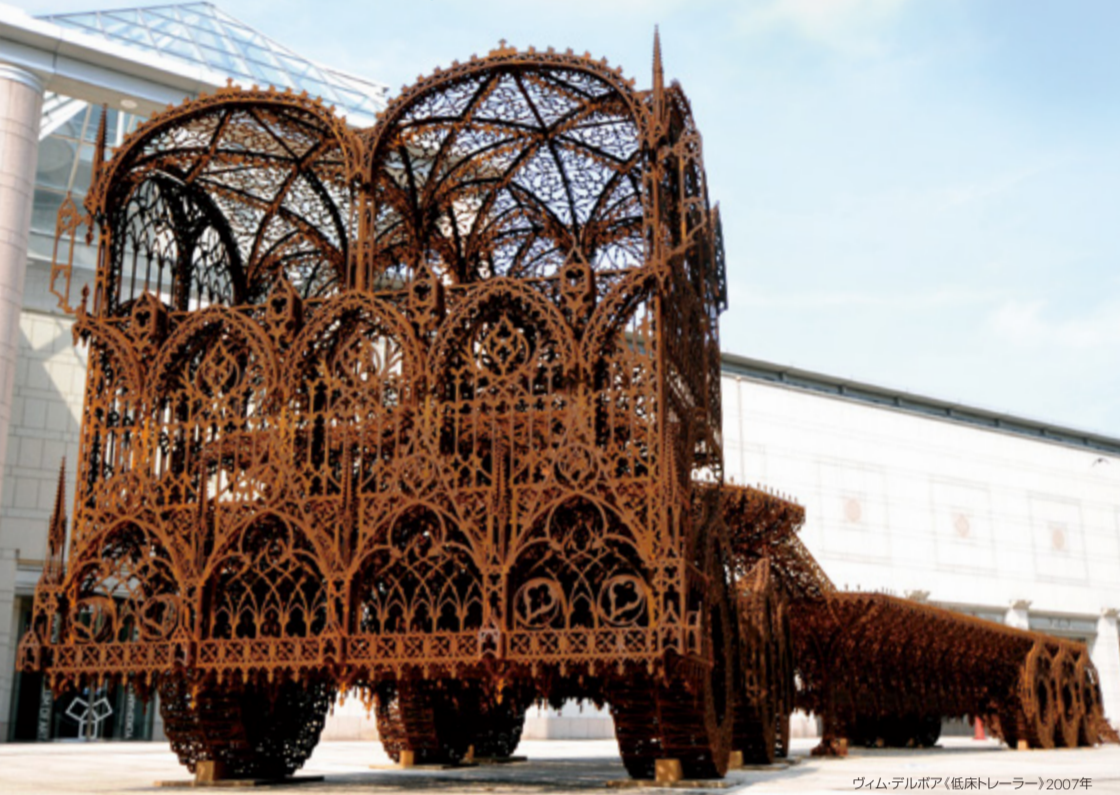


ヨコトリツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!

VOL.8
SEP.2014

ヨコトリをもっと楽しもう、ハマトリツ!とっしょに!



ヴィム・デルポア「低床トレーラー」2007年

「ヨコトリツ! (Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「ハマトリツ!」による手作りのフリーペーパーです。「トリツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat! (トリック オアトリート!)」=お菓子をくれなきゃイタズラするぞ! から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

ヨコハマトリエナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」

会期: 2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) | 主会場: 横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)
アーティストック・ディレクター: 森村泰昌
ヨコハマトリエナーレ2014公式WEBサイト <http://www.yokohamatriennale.jp/>



おすすめは新港ピアです

「ヨコトリツ2014」の出品作品には、どれもこれも格別の愛着がある。だから、どれがおすすりかなくて、なかなか言えそうにない。そこをある程度おぼろげに、今、私の一番のおすすりめは新港ピアである。一言でいうと、思う。美術館の展示を見るだけでも、せつじゅうばん心は満腹になる。でも新港埠頭にある巨大なスペース、新港ピアに行かないのは、なんとももったいない話である。

き固めた作品。諏訪に残された作家のアトリエ、通称「おの部屋」の間取りを再現し展示室とした松澤智の展示。教会のオフアラインボックス(養銭箱)に異常な執着を見せ、十年間に渡って世界各地をリサーチし、その結果得た膨大な写真資料と、それに基づいて制作されたオフアライン彫刻を展示する笠原恵実子。原爆投下の悲劇に見舞われた広島を撮影し続ける、土田ヒロミの写真群。若くして亡くなった三人の映像作家、アナ・メンディエータ、ジャック・ゴールドスタイン、バスヤン・アデル。福岡アジア美術館トリエンナーレの「アジアにおける忘却」をテーマとした映像作品の数々……と、見逃せない作品がつつ。ぜひ足を運んでみてください。



Morimura Yasumasa

森村泰昌

【森村泰昌 プロフィール】1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。1985年、ゴッホの自画像に扮したセルフポートレート写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人たちに扮した写真や映像作品を制作している。ヨコハマトリエナーレ2014アーティストック・ディレクター。

私の論考「忘却をめぐる3つのエピソード」も収録、ぜひショップにて御覧ください。ヨコトリの見方がまたひとつ変わるはず。

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリツ!」VOL.8 ●企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター ハマトリツ! フリパチーム(青木邦彦/入江暢子/上田良寛/江藤真央/大島由理香/斉藤照子/田所望/田中久美子/林いずみ/林田将来/深野一穂/本間智子/山田崇之) ●カバー作品: ヴィム・デルポア「低床トレーラー」 ●カバーフォト: 深野一穂 ●紙面デザイン: 山田崇之 ●発行日2014年9月20日 ●発行元: お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局【横浜市中区日ノ出町2-158 黄金町エリアマネジメントセンター内】TEL: 045-325-8654 ●横浜トリエンナーレサポーター公式WEBサイト <http://www.yokotorisup.com>

次号予告 釜ヶ崎芸術大学をピックアップ&まだまだ楽しめるヨコトリ 10月中旬発行予定!

Hama-Treats! Event Calendar

*イベントの開催日時・場所・内容は予告なく変更される場合があります。最新情報はハマトリツ!ウェブサイト、またはヨコトリ公式ウェブサイトにてご確認ください。



座学講座などのヨコハマトリエナーレ2014をより深く知るためのプログラムです。

しばいたるか現代アート(全5回予定)

横浜美術館首席学芸員の天野太郎さんによる、アートコラムです。顔のみ見える距離で、天野さんのお話を味わえる! 裏話も聞けるかも?

●Vol.3 作品の面白さは何処にあるのか?

日 時: 9/26(金) 19:00~21:00

●Vol.4 美術の行方

日 時: 10/10(金) 19:00~21:00

●Vol.5 社会と美術の繋がり

日 時: 10/24(金) 19:00~21:00

(Vol.3・4・5とも)

場 所: 黄金町 高架下スタジオ Site-D 集会場

横浜市中区黄金町1-2番地先

定 員: 各日30名

登壇者: 天野太郎(ヨコハマトリエナーレ2014キュレトリアルヘッド)

ヨコトリキュレーションチーム

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込

参加費: 無料(参加にはヨコトリ2014当日有効なチケットが必要です)

サポーター企画のイベントのお申し込みは……
横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリツ!」
公式ウェブサイト
<http://www.yokotorisup.com>



遊んで作るのワークショップ

*LOGBOOK:市原幹也(演出家)と野村政之(ドラマトゥルク/演劇作家)が共同開発したプロジェクトです。
<http://logbookinfo.tumblr.com/>

LOGBOOK 遊んで作るのワークショップ

LOGBOOK は、まちを海に見立て、その海を航海したあなたの「logbook:航海日誌」をつくり、それを誰かと交換して遊ぶアートプロジェクトです。いつもと違う視点でまちを歩き、自分の発見したまちの魅力からオリジナル「logbook:航海日誌」作りに挑戦します。

●第4回

日 時: 9/28(日) ①13:00~16:00「あそび」&「つくる」
②16:30~17:30「あそび」

場 所: 新港ピア

定 員: 各回15名(定員に達し次第、受付終了いたします)

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込、または当日ワークショップ会場に直接ご来場ください。

ハマトリツ! メンバー限定 【ウラ】おもてなしプロジェクト

【あいつりふあん×ハマトリツ!】
ヨコトリ2014を通して新たな人とのつながりを目指すべく、様々なアートイベントに関わっている団体とのコラボ企画。第二弾は愛知を拠点とする「あいつりふあん」のみなさんと交流します! 時間や参加費用などの詳細は、ハマトリツ! ウェブサイトで近日中にお知らせします!

日 時: 9/27(土)



きおくのアルバムづくり

ヨコトリ2014のキーワード「忘却」をテーマに、親子の対話から、生まれるまえの世界をイメージして表現。思い出のカケラを共有し、思い出せない記憶を作品にします。ワークショップで制作するのは「アルバム」と「キャンパス」の2つ。「アルバム」は最後にお持ち帰りいただけます。

日 時: 10/5(日) ①10:30~12:00/②14:00~15:30

場 所: 横浜美術館アートギャラリー2

対 象: 3歳~7歳までのお子さまとその保護者

定 員: 各回先着10名(事前申込制)

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込

*当日に必要なお持ち物は特にございません。絵を描いたり工作を行いますので、汚れてもよい服装でお越しください。

ヨコハマトリエナーレ 2014 本展イベント情報

TAKIDASHI カフェ

大阪の釜ヶ崎地区を拠点に、生きるための学び合いの場を展開する釜ヶ崎芸術大学の講座を開講。釜ヶ崎の現役炊出番長が炊出しを実践し、その意味について語るTAKIDASHIカフェを開催します。

日 時: 9/20(土)・21(日) 12:00~13:30

会 場: グランモール公園(横浜美術館前)

定 員: 各日300名

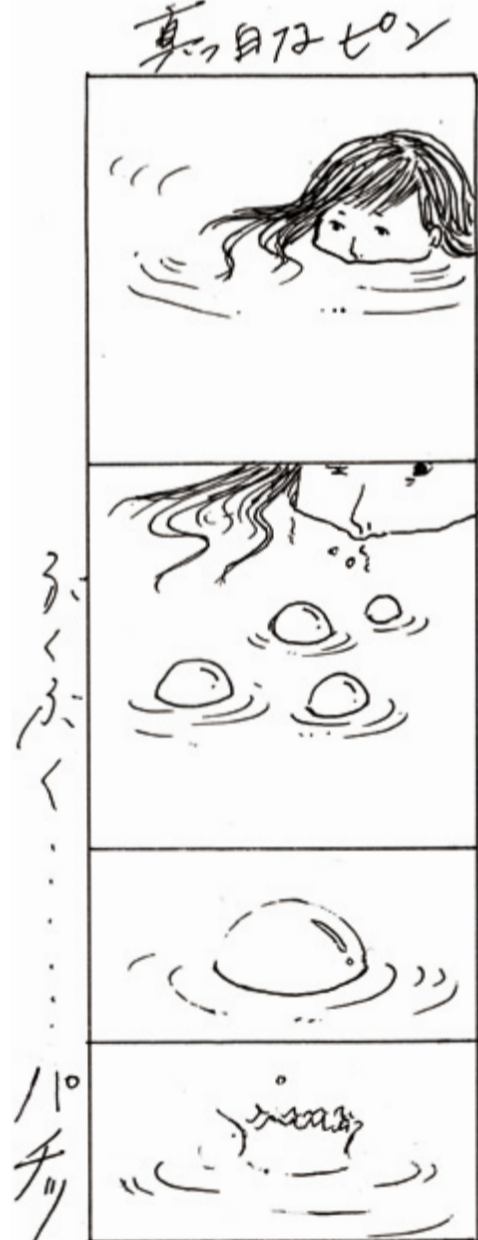
参加費: 無料

助 成: おおさか創造千島財団

ヨコハマトリエナーレ2014 公式グッズ
横浜美術館ミュージアムショップおよび新港ピアオフィシャルショップで絶賛販売中!
*価格は全て税込



チケットフォルダ 380円
トートバッグ(グレー/ピンク) デザイン:有山達也 各1,800円
横浜美術館ミュージアムショップ / 新港ピアオフィシャルショップ
【営業時間】10:00-18:00(10/11、11/1は20:00まで)
ヨコハマトリエナーレ2014休場日は休業



江藤真央 <http://maeto.tumblr.com>

おもてなしマップ第1弾、「忘却」マップ、ついに登場!

横浜美術館入口「Hama-Treats! Station」、およびビジターサービスセンターで無料配布中!

ヨコハマトリエナーレ2014来場者やみなとみらい21地区に遊びに来た方々に横浜の魅力をお伝えすべく、横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリツ!」のおすすり情報をつめこんだ「おもてなしマップ」。その第1弾「忘却」マップがついに完成しました。幕末以降開港当時のまちの様子を描いた「横浜絵」を、現代の地図にマッピング。これを片手に、忘れられた過去の景色に思いを馳せながら、いまの横浜を歩いてみませんか? AR技術を用いてお手元のスマートフォン、タブレットと連動させれば、さらに深いトリビアも楽しめる、ユニークなマップです。



ヨコトリをもっと楽しもう、ハマトリーツ!とっしょに!

お客様にヨコトリと横浜をもっと楽しんでほしい、その一心で準備を重ねてきたヨコトリサポーター“ハマトリーツ!”。ヨコトリに来たのならハマトリーツ!が活躍するあんな活動やこんな企画、見逃したら損ですよ!

ヨコトリ2014の魅力伝えるために

サポーター視点で注目の作品をご案内します。「団体のための事前ガイダンス」「ギャラリー・ツアー」

ヨコハマトリエンナーレ2014期間中のサポーター活動に、団体のお客様にみどころをレクチャーする「事前ガイダンス」、作品の前で解説する「ギャラリー・ツアー」があります。どちらも作品に対する理解が必要になります。そのための準備は、まず「事前ガイダンス」原稿の執筆から始まりました。

事前ガイダンスの原稿は美術館で用意するのではなく、トークを行う人自身が執筆します。学習で「自分のもの」とすることが求められているのです。今回は参加人数が多いので、約20人のグループ6つに分かれ、それぞれのグループで原稿を用意します。

「ヨコトリーツ!」第6号でこれらの活動を支援する横浜美術館の端山さんのインタビューがありますが、「サポーターの皆さんに『ヨコトリは私の展覧会だ』って思ってもらえたら、最高」という言葉がありました。我々サポーターもその言葉に動かされ、勉強に力が入ります。ミーティングでは各人が勉強した結果を持ち寄って、共通の

理解を作っていきます。ヨコトリ2014は2つの序章と11の挿話という形で構成されており、作品と挿話が関係づけられている意味も重要です。勉強会では議論百出。「このアーティストと『忘却』の関係は?」「現代における焚書の意味は?」。普段考えないようなテーマで、右脳と左脳がオーバーヒートです。

原稿には美術館のチェックが待っています。原稿は書いてもそれだけでは不十分で、あがりせずしっかり喋れないといけません。第一陣のテストトークが7月27日28日の二日間かけて行われました。

8月1日開幕の日から、事前ガイダンスもスタートです。最初にデビューしたのは利根川さん。聴衆は2つの学校の生徒さんたちで、会場は通常より大きいレクチャーホールです。緊張するシチュエーションですが、堂々とした話しぶりでした。

8月15日からはギャラリー・ツアーも始まりました。トップバッターの松岡さんに寄稿いただきました。(上田)

「忘却」をめぐる壮大なストーリー、その世界観も伝えたい

ギャラリー・ツアーの特徴は、作品を目の前にして、その魅力に直にふれながら話を聞けるということです。ガイドによる解説や対話をとおして、作品や作家への理解が深まりますので、是非、皆さまにギャラリー・ツアーに参加頂けたらと思います。

今回のヨコトリは忘却というテーマを中心にストーリー仕立てになっていることが特徴です。よく練られた物語のように、それぞれの作品とテーマが共鳴し合い、作品の魅力がさらに引き出されるという仕掛けがされています。私はツアーの中でそのようなことも伝えたいと考えています。

私のおススメの作品の一つを挙げるとすると、メルヴィン・モティの〈ノー・ショー〉という映像作品です。戦火を避けるため、作品の展示がなくなった美術館において、作品をめぐるギャラリー・ツアーが行われたという史実を映像によって現代にのみがえりさせた作品であり、目に見えないものに美の本質があるということを教えられる。そこに作品がなくとも深い理解と愛情をもって熱く語られるそのツアーの様子、私たちのギャラリー・ツアーが目標とすべき一つの在り方のような気がします。(松岡尚文)



参加者限定 イベントに潜入!

ハマトリーツ!メンバーだけが参加できる交流会と、子どもたちだけで“忘却の海”を旅する「ヨコトリ号子ども探検隊」。その様子を密着取材しました!

(ウラ)おもてなしプロジェクト 【水戸芸サポーターXハマトリーツ!】



サポーターが参加できるイベントの一つに様々なアートイベントに関わる団体とのコラボ企画「(ウラ)おもてなしプロジェクト」があります。8月31日にその第一弾として水戸芸美術館サポーターの皆さん30人との交流イベントがありました。

まず本展を鑑賞し、その後昼食会へ。横浜美術館の逢坂恵理子館長を始め、50人を超える参加者が集まりました。アートを多くの人々に広めたいと願う美術館関係者・サポーター同士、話は尽きる事なく大変活気ある交流の場となりました。

当日の詳細は「ヨコトリーツ! 号外」に掲載。ぜひご覧ください。今回の交流で今後どのような化学反応がおこるのでしょうか?!! 楽しみです。(本間)

夏の教室 ヨコトリ号子ども探検隊 小・中・高校生対象のプログラム

8月24~25日に中高生が小学生とともに展覧会を巡る「夏の教室@ヨコトリ号子ども探検隊」が開催されました。「お子さまランチではなく、子どもにもアートのフルコースを」という森村ディレクターの発案のもと、24人の中高生たちが6班に分かれ、ヨコトリをガイドするために作品を選び、作家の意図を研究し、アート作品制作のワークショップの企画まで、5月からずっと準備してきたものです。2回目の初日取材しました。

〈アート・ピン〉の中身をじっくりと見るグループ、「華氏451度」の文庫の実物を見せながらテーマをひもとくグループなど、それぞれのやり方で会場を見て回りました。小学生も熱心に耳を傾けていました。説明する側とされる側の年齢の近さがアートをより身近に感じさせるようです。(田中)



詳細レポートは、ヨコトリサポーターウェブサイト内特設ブログ「ヨコトリーツ! 号外」に順次掲載します。お楽しみに!
<http://www.yokotorisup.com>

とっつきにくい現代アートもおいしく料理

アートに関わるさまざまな方を招く「サポーターズサロン」。人気の天野太郎氏のアートコラムを紹介



ヨコトリサポーター“ハマトリーツ!”イベント・企画チームが開催するサポーターズサロン。その一つが、ヨコハマトリエンナーレ2014キュレトリアルヘッド天野太郎氏(横浜美術館主席学芸員)による「しばいたろが現代アート」です。全5回のこのシリーズの第1回が8月29日に黄金町エリアの日ノ出スタジオで行われました。

2011年前回展以降行われていたトリエンナーレ学校では、毎回「天野太郎のアートコラム」として5分間のトークが行われていたが、もっとたっぷり聞きたいという声が多く、拡大版を行うことになりました。膝付き合わせての距離でビールなど飲みながらリラックスした雰囲気が始まります。

今回のサブタイトルは「世界に対して物申す!」。どんな話から入るのかと期待していたら、「会場のみなさんからお題を出していただいて」とまさかの

展開にとまどいが走ります。そんな中出てきた質問は「Temporary Foundationとはいったい何?」。

京都市美術館で1991年まで行われていたアンデパンダン展。その中で一番大きな第一陳列室を毎年占有していたのが林剛と中塚裕子のユニットで、Temporary Foundationは残された資料(アーカイブ)から再現を試みるものである。両名とも存命なので聞けば正確に分るはずだが、あえてそうせず、そのためクリエイションの要素が入ることになる。これを天野氏は子どもの夏休みの宿題に喩える。図書館で同じ資料を調べて書いても、同じものはできないという訳だ。

話は現代美術の重要な概念である「『作る』から『発見する』へのシフト」、そこに果たした写真の影響、さらには、鏡により人間が自分を発見したこと、言語の役割……と話題は自由自在にシフトして行く。

結局お題としては最初の一つだけで終わってしまいました。今後も同様にどんな話題になるのかわからないので目が離せません。毎回サブタイトルはついているんだけどな。10月24日まで5回にわたって開催されますので、サポーターウェブサイトをチェックしお申し込みください。(上田)



いつものまちが冒険のステージに! ほかの誰かと自分の視点が交錯する、新しいまちの歩き方「LOGBOOK」



8月31日、ヨコトリサポーター“ハマトリーツ!” LOGBOOK

チーム主催の「LOGBOOK 遊んで作るのワークショップ」イベントを体験してきました。

LOGBOOKとは、航海日誌のことであり、実際は1枚の大きな紙です。そこには、航海=まちあるきの記録が残されており、それを見ながら他者の航海を追体験したり、また自分の航海を記録することで、いつもと違った視点でまちあるきを体験することができる不思議なツールです。

まずは、「遊び」のワーク。数人でグループを組み航海へ。記された言葉を頼りにこの「logbook; 航海日誌」を作った誰かの足跡を辿ります。この人はどう歩いたのだろうか?と夢中でキョロキョロ。たとえば「4人の巨人」という表現。3本の木の前で考えこんでいると、ご近所の方が「その木は1本が大雪で倒れた」と教えてくださるなど、まるでRPGゲームのような出会いがありました。わずか30分の間に、ただのまち並みは発見に満ちた異空間に変化していったのです。

遊んだあとは「つくる」のワーク。今度はひとりでまちに繰り出します。驚いたのは自分の五感が鋭くなっていたこと。手元の白地図はあっという間に気付きのメモで一杯になりました。最後は、濃密な航海の記憶を「logbook; 航海日誌」としてまとめ、ワークショップは終了。

参加者の皆さんは、「いつもの生活圏が違って見えた」「井戸や湧水など知らなかったので新鮮」など楽しそうに感想を話していました。10月も横浜美術館ほかでこのイベントが開催されます。ぜひ皆さんも「航海」を通して異空間の横浜を体験し、記憶を「logbook; 航海日誌」として残してみませんか?(林)

